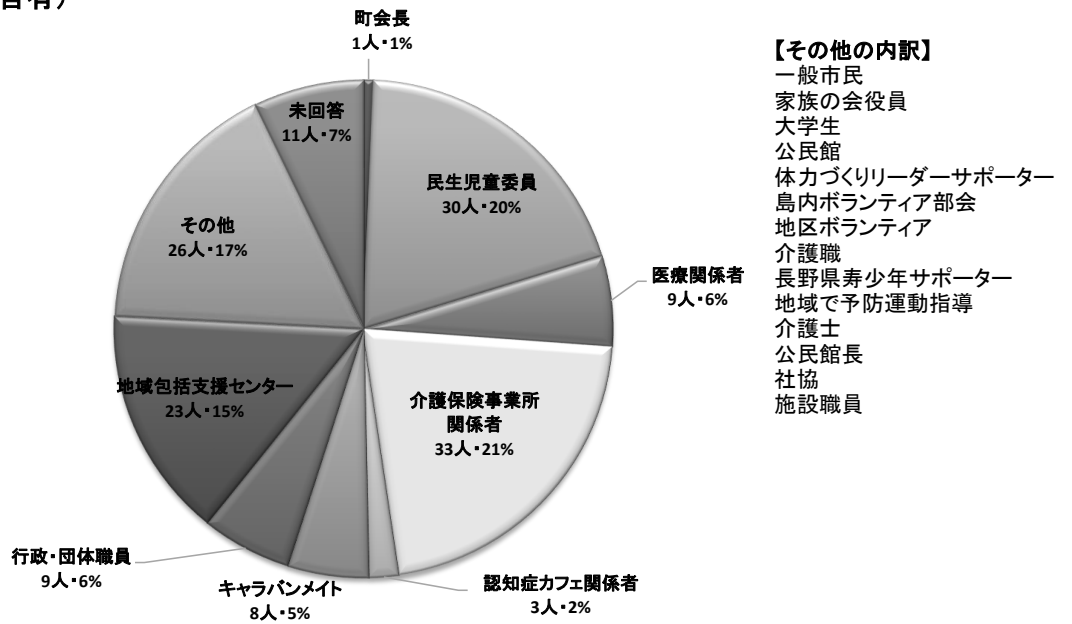


令和元年度 認知症研修会

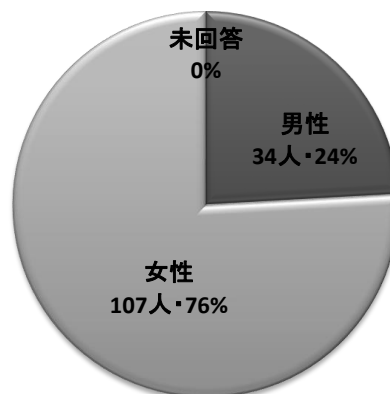
日時 令和2年1月29日(水)
午後1時30分～午後3時30分
会場 松本市浅間温泉文化センター

参加者:200人 アンケート回収:141人

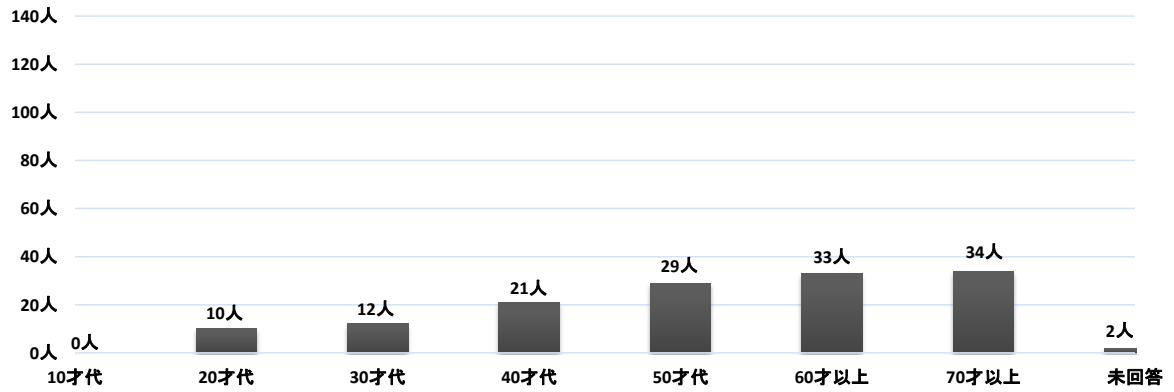
1. 職種等 (複数回答有)



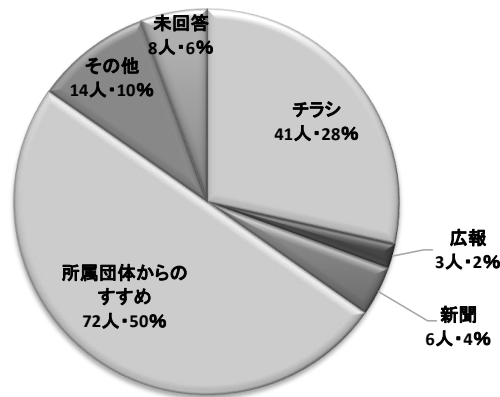
2. 性別



3. 年齢



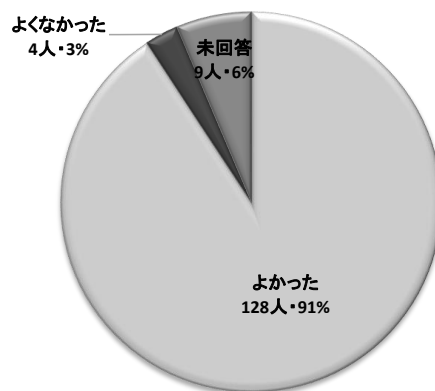
4. 参加のきっかけ(複数回答有)



【その他の内訳】

同職種者からのすすめ
 研修にて
 業務
 民児協にて
 所属大学の教授の紹介
 市役所の職員からの直接情報
 知人からの誘い
 包括の人の紹介
 市民タイムス

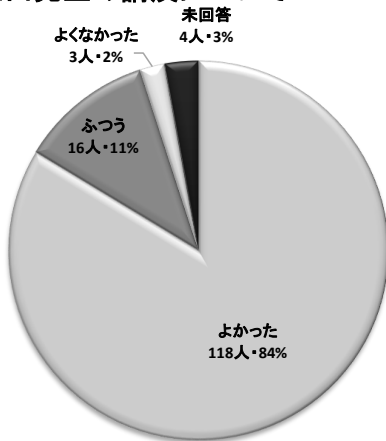
5. 開始の時期



【その他の内訳】

できれば月末でない方がよかった
 夏頃に
 月半ばを希望
 月の中旬
 土曜日
 夏
 厳冬期は避けた方が良い

6. 永田先生の講演について

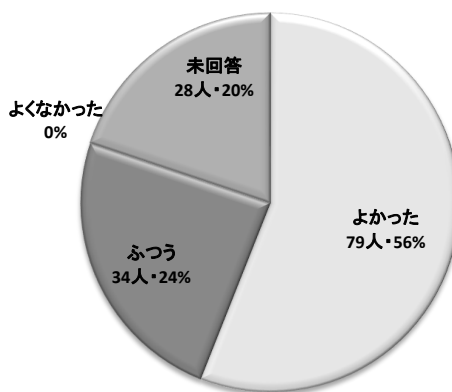


【意見】

- ・希望があるイメージを持つことが状態の安定につながるとわかってよかった。
- ・地域の中で、進行性の状態をどのように考えるかが分かりやすかった。
- ・きれいごとすぎる。どういふ地域の仕組みを作ったらどうなったかと、取り上げてほしい。
- ・認知症のとらえ方、つながり方、見方がかわった。
- ・地域をまきこむ方法や手法も知りたかった。
- ・今まで世話をする家族の事(支援)しか考えていなかった。
- ・認知症になっても希望をもって取り組んでいきたいと思った。
- ・認知症施策推進大綱を知れたこと。
- ・マイク音量をもう少し上げていただけたら。聞き取りにくかった。
- ・スローガンが伝わってきた。
- ・認知症の悪化、発症の引き金など。
- ・マイナスイメージを持っていたが、希望を持てることが理解出来た。
- ・本人の声に耳を傾けるのが大切という投げかけが良かった。
- ・声がきれい。実際に認知症の方がどこまで担い手になるのかは、疑問に感じた。
- ・地域で支援していくときの心のよりどころになる内容だった。

- ・具体的事例が多い。
- ・スライドで分かりやすく、放課後児童の帰りを待つことにいいなと強く感じた。
- ・「一歩先に行く人」「先輩」という考え方。そういう考え方は身近に感じ信頼をもてる関係を築けそう。
- ・実際の認知症の方の活躍の場、周りの方の関わりの様子から、担当地区でも取り決めたり働きかける事が出来るものがあるのでは・・・とヒントになる事等浮かんだ。
- ・地域が変わる事、認知症へのむきあい方、とても考えさせられた。
- ・実践紹介で一人一人の生き生きした様子が伝わってきた。
- ・ずっと同じ調子での話で時間が長すぎた。
- ・私たちに認知されていない推進大綱という、地域丸投げの施策が何故できたのかや、各国では2000年初めに策定された大綱に日本は10～20年遅れた原因は何かを詳しく聞きたかった。
- ・認知症の方の目線で話が聞けた。ゆっくりと話しかけるような講話も良かった。
- ・地域の中で特別なことではなく溶け込んでいることがその方にとって幸せであると学ばせて頂いた。ひとりひとりが地域の力。少し長時間に感じた。穏やかな話し方、感動した。
- ・肩の力が抜けた。むきになって活動する事より、日常の生活の中出来る事を見つけてやっていきたいと思った。
- ・認知症バリアフリーの話が理解出来た。
- ・本人(高齢者)が聞いても、介護従事者が聞いても利があり良かったと思う。
- ・現実現場で取り組まれている話が、机上の話ではなく感激した。

7. 取り組み発表について



【意見】

- ・認知症を理解し見守り支援している事。
- ・若い職員が頑張っていると感じた。
- ・時間が短すぎた。
- ・今後に役立てていく。
- ・一方的な報告で資料もなくわかりにくい。
- ・身近な体験が聞けた。
- ・今年度から始まった生活支援員というよく理解できない仕事の一部が見えた。
- ・認知症の方に対して地区支援員が良い「みかた」になりつつあると感じた。
- ・認知症本人が自覚して頑張っていた。
- ・次第に発表者の名前や項目などであると分かりやすかった。
- ・時代に合っている。
- ・子供たちとお年寄りとの地域での自然な関りがみられていい。
- ・松本市立病院と地域の方々との取り組みを初めて知った。もっと広報すべき。
- ・竹川さんの事例は具体的で身近な事例と重ねて考えながら聞く事が出来た。
- ・身近な所までの取り組みまで意識できていなかったが、小さな発見声かけを続けたい。

- ・今までも取り組んでいる事の発表だったので、もっと進んだ取り組みの様子を聞きたかった。
- ・生活支援コーディネーターの個別対応の事例は良かった。
- ・専門職のすべきこと。本人の気持ちの傾聴をもっとすべきこと。多くの方が実践していただきたい。
- ・身近な所から少しずつ動き出して、どうお話を聞いて自分の身の回りはどうか調べたくなった。
- ・接し方の工夫など地域の人たちと共有し学べて行けるといいと教えてもらった。生活支援そのものが認知症の方達との共生だと改めて学んだ。
- ・取り組んでいることがわかったが、他に課題を抱えている人が地域に多くいるが、まだまだ知らない人が多いような気はする。
- ・松本でも地域での関わりが始まっているという事を理解してもらうためにはよかったと思う。
- ・身近での取り組みの話が聞けて、今後自分の所でも取りかかれそうな話を聞けたので。
- ・自分が認知症？と思うような年齢になったが、出来るだけ外に出かけ話す機会になるよう努力する。
- ・知らない取り組みも行って、「へえ」と思った。そういうことが地域で行われていいと思う。
- ・竹川さんの話が良かった。地域の松本市の職員の方が一生懸命取り組むと、その地域の方々方が取り組みに参加していくのではないかな。

8. 今回の研修会に参加して今後出来そうなことややってみたい事

- ・特養で働いている。正直地域とのつながりは薄い。そして現場では旧文化が定着してしまっているの、特養の中でも新しい文化という所を意識しながら利用者の方と関わっていきたい。
- ・認知症の人ばかりではなく誰とでも声掛けをたくさんしたいと思った。
- ・認知症カフェ立ち上げ支援をすることになっているが、その方の意思や思いを聞いて、楽しく希望を持ったものにしていけるように手伝っていききたいと思う。
- ・まずは地域、本人の思い。支援、プラン・・と忘れがちですね。
- ・本人や家族の希望を持たせられる声かけ。
- ・楽しみの場が、ちょっと認知症による失敗を一つしてしまったことから、その場に行かれなくなってしまうなど、住みにくい地域になってしまわないように周囲の理解やちょっとした工夫、本人の声を聴くことで改善のヒントを見つけられたりというような、そういう視点や浮かんだアイデアなど大切にしていきたいし、地域と共有できたらと思う。
- ・民生委員として顔を覚えていただき、一人暮らしの方への声かけ傾聴等できればと思う。
- ・地域で引きこもっている方を外に出す。
- ・あたたかい見守り。
- ・地域とのつながりを深め希望をもって自分らしく暮らすことができるように努力したい。
- ・城西病院へのボランティアを続けてゆく。(庭掃除)
- ・専門職の立場の自分。家に戻った時に認知症初期のじいさんと暮らす孫になる自分の差は埋められないが、本人の声ならもう少し聞いてあげられるのかなと思った。
- ・専門職を目指す前に地域の一人としてつながりを深めたい。
- ・まず自分の身の回りの活動や、地元の地域の活動はどうか調べたい。近くの認知症の方からお話をしてみたい。
- ・オレンジカフェに全力でサポートしてきてよかった。今のカフェは、先生のおっしゃるふうに皆と一緒に笑ったりおしゃべりできる場になっていて良かった。
- ・何か特別なことをやるのではなく、顔の見える関係づくり、身近な人への声かけ、気をかけて生活することが大切ではないかと思う。
- ・病院で働く立場だが、認知症の方に関しては地域の力が本当にカギになると思うので、あらためて連携を深めていけたらなと思った。
- ・永田先生のご講演の中にあつた、地域に「ちょっと・・」について話をしたい。
- ・認知症になっている人いない人区別なく、声かけが出来ればいいなと思う。自分がなったら・・どうでしょう。
- ・認知症になると家族が施設に入れてしまうので、周りはいない。
- ・自分が地域でできることを考えるきっかけが出来た。
- ・これだけ崩れてしまった地域の絆づくりに手を貸していきたい。
- ・注文を間違えるレストラン
- ・認知症のイメージチェンジに関わっていききたい。本人の思いをじっくり聞く事を続けていききたい。
- ・グループホームから地域に出て資源を活用してみたい。
- ・良い事探しが出来たらいいと思った。
- ・包括の立場として地域の中で認知症の方を支える仕組み作りに関わっていききたい。
- ・日常の中で積極的に声かけ、公民館での行事にもつとめて参加していききたいと思った。
- ・この考え方の普及につとめたい。
- ・できることがある。決めつけないで声かけから始める。
- ・本人も含めた話し合いの場があると、誰にでも優しい町づくりになると思うので、本人不在の会議にならないようにみんなで話せる場があるといいなと思った。
- ・認知症の親を見たのもう少し前に話が聞けてればと思った。
- ・初期の認知症の母と生活し、つついこれもだめこれは無理と言っているが、母の出来る事希望を見つけ認めてやりたいと思った。
- ・ちょっと一緒に○○。少しの時間でも関わりを増やしていきたいと思う。
- ・引き続き認知症の人と家族会頑張ります。
- ・出来る事を探し一緒に楽しくやっていく事。買い物など。希望をもって繋がり合っていきたい。医療連携。
日頃より十分心にとめて相手の方と接したいと思う。
- ・認知症の方に対して特別なケアでなく、日常を引き出してその人らしさを探していければと思う。
- ・高齢者の訪問を頑張りたい。
- ・認知症ケア施策について、本人のいない場で支援者だけが考えている現状があると感じた。認知症の方が想いを伝えられる機会を作っていきたいと思った。本人の声を支援へつなげられたらと思う。
- ・介護老人施設を利用して、児童館代わりにできるのでは？と思えた。
- ・サポーター養成講座の時に「新しい文化」について話題にしていきたいと思った。生活支援コーディネーターとつながりの場について検討していきたいと思った。
- ・絶望的な言葉をあまり出さない。前向きな人の邪魔をしない。自分が今認知症(介4)の親を見ている最中なので、できるだけ笑顔でいたい。
- ・介護施設の現場では認知症の人に出会えるが、地域では意外に出会えていない。何か出会える方法を考えたい。個人情報の問題もあり、マッチングがしにくいのではないかとと思うので、住民が一步踏み込める方法をみつきたい。
- ・困ったことはチャンスに変えて専門職としての出来る事を少しずつでも続けたい。ゆっくり聴く事、本人の声を聴きとれるように頑張りたい。
- ・後期高齢者となり、何時自分が当事者になるのか分からない昨今、病気になってから又なる前の予備知識を得たいと思い参画した。
- ・本人にとってどうありたいかを考えて、体現していける関係・環境作りをしてみたい。

9. 認知症についての研修会希望やご意見等

- ・とても良かったのでまたこのような研修会をしてほしい。
- ・知識を得るだけでなく実践につながるような地域レベルでの研修をもっと増やしてほしい。
- ・認知症をきちんと診断できる医師が必要と思う。診る事が出来ないのであれば、専門医に紹介する事をして頂きたい。
- ・認知症なのかな？精神的なのかな？と迷う時がありどうしたらいいのかなと思っている。気晴らしが大事なんですね。
- ・地域の皆さんが持つ認知症のイメージ、考え方、地域としてできる事等もっと具体的に声をすいあげられる仕組みや場を作りたいと思った。
- ・当事者の発信を取り上げること。もっと具体的な事例をたくさん取り上げること。
- ・対応の仕方などの学習できるとよい。事例などから。
- ・松本の具体的な取り組み事例を知りたい。
- ・まだまだ認知症の人や家族は、地域とのつながり、地域の方たちに知らせて支援してもらおうという事に抵抗感のある場合があり、地域とつながりはない方たちが多くいる。その方達をどう支援するか、皆さんで話し合える機会があるとありがたい。
- ・昨年もあったが、認知症の方の講演。
- ・地域の方が病院に求めること期待する事って何かと、そんな意見が聞けたらなと思った。
- ・認知症の徴候と判定、民生委員・行政との連携、医学的見地からの予防と対策。
- ・専門職の立場での話等も聞きたい。(わかりやすい話)
- ・現実的には後むきの対応が先に立ちなかなか意識の変化が出来ていかない。
- ・今現在高校1年の野球をやっている男の孫と同居。認知症にはなっている間は今はないが、周りの協力を得たら認知症を怖がらず今は頑張ろうと思っている。良い話は何時でもよいので聞きに、勉強に出かけ、少しでも頭の心の栄養になる事は続けたいと思う。
- ・認知症の方の物の見え方、聞こえ方の再現。
- ・今後もこのような講演会をやってほしい。
- ・関係者を除いた一般市民の参加人数はどの程度なのか？行政職員が全員理解し連携すべきこと、高齢福祉課だけが研修を受け他課は協力しないのは絶望の悪循環なのでは？公民館関係、まちづくり協議会、地域づくりセンター長などこのような話を聞いて、地域づくりや生涯学習、人材育成に役立てる必要があると思う。ひろばコーディネーターは要では？研修受けているのか。
- ・地域の中で、認知症の方に対して具体的ななかかわり方(エピソード)の発表を聞くことで関係性のヒントが得られそうな気がする。
- ・三好春樹さんの認知症介護の話を知りたい。
- ・永田先生の話の中でもあったが、実際に高齢の方で生き生きと頑張っている方の体験も聞けたらさらに良かったかと思った。
- ・事例を通して症状(中核症状)がでたら、家族としてどう対応したらいいか。
- ・限界集落になりつつある地域での認知症の研修会を開催していただけたら。
- ・各所で行われている認知症の講座に参加させていただきありがたい事。
- ・本日の話の中では徘徊や行方不明の話がなかったことが残念に思えた。あと、色々な生き方の件があったが、全て経費(コスト)が必要なのでその辺の説明がなかった。
- ・地域もとても大事だが、行政・専門職の力(共働)で考えてほしい。(取り組んで欲しい)
- ・認知症予防の幻想を捨てる事。(エビデンスがない)認知症は腰痛、筋力低下と同様。加齢の結果であり誰でもなるもの→「普通の人」との認識が必要。
- ・叔母が一人暮らしをしていた時認知症となり、或る病院へ腎臓を患っていたため内科を受診することになったが、担当のDrは認知症になっていることを理解されず大変当惑した思いがある。内科医であってもある程度認知症を見れる医師であってほしいと願う。医師もこの研修会に参加する事を望みます。
- ・認知症状の詳しい話、今後の介護ニーズや介護従事者として考えていかなきゃいけないことなどの研修会。